

## 芸術系大学学長からの政策提言

### 「豊かな感性 強い日本へ」

長い歴史の中で培われた、日本独自の繊細な感性と磨き上げられた匠の技、そして思いやりの心は、第二次世界大戦後の荒廃をも乗り越え、奇跡的な経済成長を成し遂げる素晴らしい力となった。

しかし、経済的な成長が進むにつれ、日本が持っていた文化の素晴らしきは徐々に失われ、近年では将来の展望を描くことすら困難な状況にある。

そもそも文化とは人間の営み全てを包摂する概念であり、我々は、心が十分に育ってこそ科学や経済の花が咲くことを再認識し、心豊かな社会を実現しなければならない。

また、文化芸術は様々な活動における新たな付加価値の源泉であり、持続可能な成長が求められる現代にはもっとも相応しく、創造性や感性豊かな人材の育成は、芸術家に限定されることなく「強い日本」の実現のための喫緊の課題といえよう。

このため、芸術家や芸術活動を支える人材の育成を使命とする芸術系大学は、我が国の文化芸術の発展に積極的に貢献することを目指し、以下の政策を提言する。

- 一 文化芸術の社会との連携を推進し、我が国の文化芸術の創造、発展、継承を担う人材の育成を強化すること
- 二 文化政策を推進するため、大学等の研究機関による文化芸術に関する調査研究の充実を図ること
- 三 我が国の特色ある文化芸術を世界に発信し、国際文化交流を活性化すること
- 四 本シンポジウムを契機として、芸術系大学相互のネットワーク作りや、文化庁と芸術系大学との連携に加え、初等中等教育における芸術教育に関しての連携についても一層強化すること

平成二十二年十二月